

指定ごみ袋制度及びごみ搬入手数料の見直しに当たっての検討項目

〈指定ごみ袋制度の見直し〉

- 1 制度見直し（手数料徴収）理由の妥当性
 - 有料化の基本的な考え方
これまで、税金のみで賄われていたごみ処理費用の一部を市民に負担していただく仕組みとすることで、ごみを排出する量に応じた費用負担による公平性の確保とごみ減量の推進
 - 効果
 - ・ごみの排出量の抑制とリサイクルの推進
 - ・費用負担の公平性の確保
 - ・焼却施設の更新時の経費節減
 - ・焼却施設の経費の軽減
- 2 手数料の料金体系について
 - ・単純方式（排出量単純比例型）、二段階方式（排出量多段階比例型）、超過従量方式（一定量無料型）のどれを採用するか。
 - (1) 各方式のメリット・デメリットのほか市民の受容性は。
 - (2) 削減効果が見込めるか。
- 3 手数料の徴収方法について
 - ・市民から手数料を実際に徴収する方法の検討
 - ・市民にとってわかりやすい方法か
- 4 手数料負担額について
 - ・ごみ処理経費の一定割合を徴収
 - ・統計値（近隣・全国等の平均値／最頻値）を考慮する方法
 - (1) 削減効果が見込めるか。
 - (2) 市民の受容性の範囲か。
 - (3) 収支は。（収入見込み）
- 5 指定ごみ袋の素材・種類について
 - ・脱プラ推進に向けて、素材の検討
 - ・指定ごみ袋の種類（サイズ含む）
- 6 減額免除の検討
 - ・対象者は
 - ・対象とするごみの種類は
- 7 制度見直しに伴って生じる対策
 - (1) 還元策（排出抑制が困難のもの 例：草木）
 - (2) 分別不良に対する処理責任
 - (3) 有料指定袋（仮称）の供給体制
 - (4) 不法投棄対策
 - (5) その他

〈ごみ搬入手数料の見直し〉

1 見直し理由の検討

【ごみ搬入手数料の基本的考え方】

- 1) 3Rの促進、ごみ処理にかかる経費の抑制、環境負荷の低減にも繋がるような手数料体系の構築。
- 2) 指定ごみ袋から手数料を徴収するにあたり、ごみ処理施設利用者にも適切なごみ処理手数料を負担いただく料金体系の構築。

【検討の視点】

- 1) ごみ減量を進めるため、経済的インセンティブが働く仕組みとする。
- 2) 手数料体系を見直し、適正な負担を求める。

2 料金水準の検討

【原価主義の考え方】

- ・ごみ処理原価の推移と考察
- ・ごみ処理原価に対する受益者負担割合
- ・市内のリサイクル施設の現状

【周辺市の手数料との整合】

手数料の格差によるごみの越境の防止の観点から、周辺市との整合を検討

- ・家庭系及び事業系の手数料体系の検討
- ・現状の手数料水準
- ・10 kg未満無料規定の見直し
 - ① 個人による直接搬入への対応（家庭系有料化との整合）
 - ② 事業者による直接搬入への対応（排出者責任と受益者負担の公平性の観点）